

令和 7 年 12 月 20 日

## 生成 AI が医療を動かす——薬局は「患者の言葉」に変換する最前線

### 今号のひとこと（30 秒で読める要約）

生成 AI は、医療現場で「文章化」「要点整理」「抜け漏れ防止」を加速させています。薬局では診断そのものより、「患者説明」「服薬フォロー」「疑義照会前の整理」で価値が出ます。

個人情報扱いと根拠確認を徹底し、“下書きとして使う”運用にすると安全です。

## ■ 背景

日経新聞の（2025/12/16）特集「医療動かす 生成 AI」では、医師の現場でも生成 AI の利用が進み、『医師の 4 人に 1 人が活用』という見出しの通り、カルテ作成や診療の整理などに活用が広がつつある状況が紹介されました。この流れは薬局実務にも直結します。薬剤師は“病名”ではなく“生活”を相手にする職能です。だからこそ、生成 AI の出番は「患者さんの言葉に翻訳する」領域で最も強くなります。

## ■ 薬局での活用シーン（今日から実装できる）

- 患者説明を「その人の理解」に合わせて作る（小学生版、80 代版、家族説明 1 分版など）
- 服薬指導の抜け漏れ防止（危険サインのチェックリスト化、次回来局での質問案生成）
- 疑義照会の前に論点を短く整える（医師に 30 秒で伝わる箇条書きにする）
- 添付文書・IF・ガイドラインの要点抽出（忙しい現場で“読む順番”を作る）
- 在宅の計画書や服薬情報提供書の下書き作成（文章作成の負担を減らす）

### 薬剤師の価値が上がるところ

生成 AI は“文章のプロ”です。薬剤師は“判断のプロ”です。

文章作成を AI に任せて、薬剤師は「確認」「臨床の目」「患者の不安のケア」に集中できます。

## ■ 安全に使うための 3 原則（ここが守れないと事故ります）

1. 個人情報は入力しない（氏名・生年月日・住所・施設名・特定される症例情報も避ける）
2. 根拠に戻る（AI の文章は下書き。添付文書・IF・院内/地域のルールで必ず確認する）
3. 最終判断は人間（AI は相談役。責任は薬剤師・医療チームが負う）

## ■具体例：分子標的薬「ラズクルーズ」を“伝わる言葉”にする

ここでは、2025 年 5 月に発売された分子標的薬「ラズクルーズ（一般名：ラゼルチニブ）」を例に、生成 AI で“説明の型”を作るイメージを示します。実際の説明は、医師の治療方針・患者さんの検査結果・最新の添付文書に沿って調整してください。

### 患者さん向け（やさしい版）

このお薬は、がん細胞が増えるために使っている「増殖スイッチ（EGFR）」を止めに行くお薬です。全員に使えるわけではなく、遺伝子検査で“このスイッチが関係しているタイプ”だと分かった方に使います。点滴のお薬と飲む薬を組み合わせ、治療の効果を高める狙いがあります。

### 小学生でもわかる版（比喻）

体の中に「悪い子（がん）」がいて、その子が押すと大きくなる“スイッチ”があるとします。ラズクルーズは、そのスイッチにカバーをかぶせて押せなくする薬です。でも、スイッチの形が違う子もいるので、検査で合う人だけに使います。

### 家族説明の 1 分版（安心がわかる言い方）

この治療は、がんの増え方に関係する部分（EGFR）を狙ってブレーキをかけるタイプです。遺伝子検査で適応が確認された方に、点滴と飲む薬を組み合わせで行います。飲み方や副作用のサインは一緒に確認していきますので、不安なことは遠慮なく聞いてください。

### 薬局でのフォロー：確認チェック（例）

チェック項目	ポイント（患者さんへの言い方例）
飲み方・飲む時間	「毎日同じ時間に飲めると安定します。飲み忘れが起きやすい時間帯はありますか？」
飲み忘れ時の対応	「気づいた時点でどうするかは治療ごとに決まっています。自己判断で 2 回分まとめては飲まないでください。」
息切れ・咳・発熱	「息が苦しい、咳が続く、熱が続く時は早めに病院へ連絡しましょう。」
足の腫れ・胸の痛み	「足が急に腫れる、胸が痛い、息が苦しい等は放置しないでください。」
皮膚・下痢など生活支障	「日常で困っている症状（皮膚、便、食欲など）を教えてください。対策できます。」

## ■すぐ使えるプロンプト集（個人情報はいれない前提）

- 「薬剤名：\_\_\_\_。適応：\_\_\_\_。作用機序と目的を患者向けに 200 字で。怖がらせず、重要注意点は残して。」
- 「上の説明を小学 5 年生にも分かる比喻で。怖い表現は禁止。」

- 「この薬の『見逃すと危険なサイン』を3つ、生活上の困りごとを3つ。次回来局で聞く質問リストを作成。」
- 「疑義照会の論点を医師に30秒で伝わる箇条書きに。確認したい点：\_\_\_\_\_。」

## ■運用メモ（おすすめ）

- 生成AIの回答は「下書き」として保存し、必ず添付文書・IFで確認してから薬局の言葉に整える。
- “速くなるほど、確認は丁寧に”。このルールだけは譲らない。

## ■導入ステップ（最初の1週間で回すミニ実装）

- Day1：薬局内ルールを決める（個人情報禁止、根拠確認、保存場所の統一）
- Day2：説明テンプレを作る（やさしい版／小学生版／家族1分版）
- Day3：副作用・受診勧奨の“言い方”を整える（怖がらせず、見逃さない）
- Day4：疑義照会メモの型を作る（30秒で伝わる要点）
- Day5-7：1日1件だけ試して振り返る（現場の言葉に合うよう微調整）

## ■禁止事項（これだけはやらない）

- 患者さんを特定できる情報を入力する（氏名、住所、施設名、希少な症状の詳細など）
- AIの回答を根拠確認なしでそのまま配布・説明する
- 診断や治療方針の決定をAIに委ねる（薬局では“説明と整理”に限定する）
- 薬歴・記録をコピペで量産する（監査で一発アウトになりやすい）

## ■おわりに

薬局は、医療の言葉を患者さんの生活に落とす“翻訳機関”です。生成AIはその翻訳を、速く、やさしく、均一にしてくれます。一方で、根拠確認と個人情報の扱いは、人間側のルールで守り抜く必要があります。上手に使いえば、薬剤師は「文章作成」から解放され、「臨床の目」と「ケア」に集中できます。それが、地域医療の質を底上げする最短ルートです。

※本資料は教育目的の整理メモです。個別の患者対応は、主治医の方針および最新の添付文書・IF・ガイドラインに従ってください。